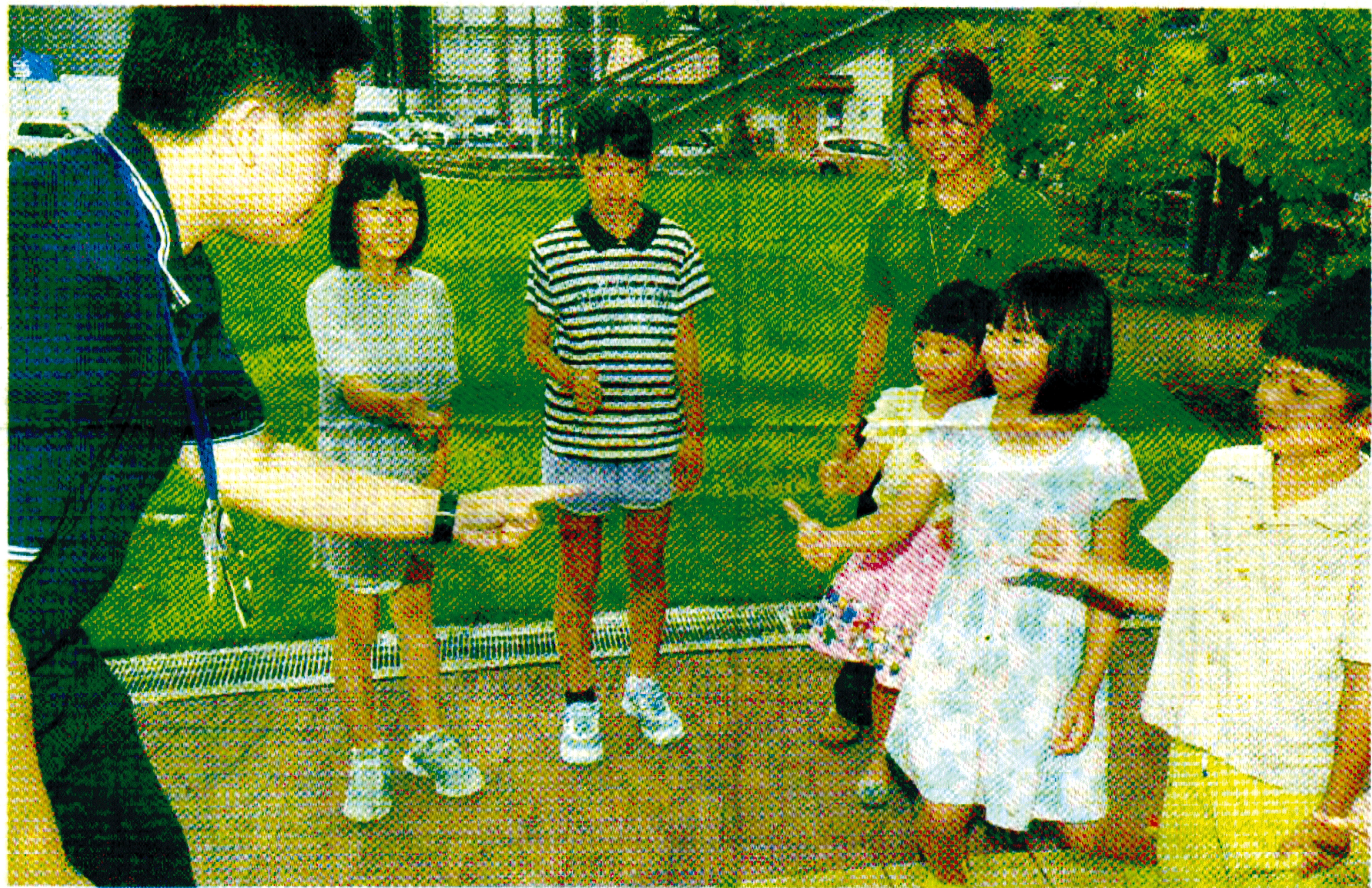




小学生世界の遊び体験

県大留学生らから学ぶ

遊びを通して子どもたちが外国の文化に触れるイベント「せかいのあそびば！」が28日、高知市永国寺町の高知県立大学永国寺キャンパスで行われ、県内の小学生約10人がインドネシアなどの遊びを楽しんだ。

地域の課題解決に取り組む学生を大学が支援するプロジェクト「立志社中」の一環。同市の国際交流員や龍馬学園の留学生を招き、道具を使わずにできる各国の遊びを教えた。

子どもたちは、親指をゾウ、人さし指を人、小指を

アリに見立てたインドネシアのじゃんけん「スウィット」に挑戦。「アリの巣を壊したゾウの鼻に、アリが入りこんで退治する話がある。だから、アリはゾウに勝つ」という説明に、子ど

もたちは「えー！」と目を丸くしていた。「スウィット」に元気なかけ声を合わせて楽しんだ。そのほか、中国の「だるまさんが転んだ」やミャンマーの鬼ごっこなどを体験した。

高須小学校3年の神谷美結さん(8)は「たくさん遊べて楽しかった。別の国の遊びも気になる」と話していた。

(市原百)